

東京通信病院

住所：〒102-8798 東京都千代田区富士見 2-14-23

TEL：03-5214-7111

HP：<http://www.hospital.japanpost.jp/tokyo/index.html>

リハビリテーション科医師(2019年6月現在)

責任者：医長 竹川徹(東医H10卒)

指導医：医長 竹川徹(東医H10卒)

総病床数：477，リハ科病床：0，診療科数：29

理学療法士 10名，作業療法士 6名，言語聴覚士 2名



責任者からのコメント

急性期から予後予測を行い、リスク管理をしながら、自宅退院・回復期リハビリテーション病院などへの転院へ向けて、患者マネージメントを実践できます。上下肢痙縮に対するボツリヌス毒素治療では、経験豊富な指導医が懇切丁寧に指導いたします。

整形外科・神経内科・脳神経外科をはじめ、救急科、外科など、様々な診療科より多岐にわたる疾患で依頼を受けます。カンファレンスを通じた横の連携はもとより、比較的小ぢんまりとしており、和気あいあいとした雰囲気での意思疎通は良好です。

研修病院としての特徴

1. 脳卒中のリハビリテーション

脳卒中(脳血管障害)の入院患者では、急性期から、障害に対する適切なリハビリテーション処方、リスク管理、在宅復帰を目標とした支援、自宅環境調整等まで実施します。外来では、復職へ向けた評価、上・下肢痙縮に対するボツリヌス毒素治療(ボトックス®)、電気刺激療法(NESS システム®)、義肢・装具、失語症への言語聴覚療法等を積極的に行っております。失語症患者では、関東圏外から通院されている方もいます。

2. 多岐にわたる疾患

入院では、院内他科の入院患者を中心に診療しています。パーキンソン病等の神経変性疾患、慢性閉塞性肺疾患・呼吸器疾患の周術期、骨折、人工関節・靭帯損傷術後、腫瘍・緩和ケア、摂食・嚥下機能障害、排尿障害等が多いです。適宜、各科とのカンファレンスを実施することにより、リハビリテーション科と各科との連携を重視しています。最近、超高齢者や元々障害のある患者が増加傾向にあり、早期からの離床を心がけています。褥瘡回診、NST(栄養サポートチーム)回診では、リハビリテーション医学の視点からチーム医療に参加しています。

3. ボツリヌス(ボトックス®)毒素治療

ボツリヌス毒素治療では、指導医の豊富な経験を生かし、上・下肢痙縮(つっぱり)・かぎ爪様趾等への治療を行っています。痙縮を適切にコントロールすることにより、痙縮による障害を可能な限り軽減するよう努めています。ボツリヌス毒素治療の習得は、将来、開業した際にもとより病院勤務のリハビリテーション科医にとっても、必ずや有効な武器となりえます。

最後に

当院のリハビリテーション科スタッフは、仲が良く良い雰囲気の中で楽しく仕事をしています。皆様の要望を聞きながら、できるだけ希望に沿うよう応えていくことが可能だと思います。ぜひ一緒に仕事をしましょう。

東京慈恵会医科大学
リハビリテーション医学講座